

日本銀行
支店長の
視点



山崎真人氏

日本銀行神戸支店が開設して今年で96年目を迎えます。当時、日本最大の貿易港として、造船業や海運業が発展し、外国為替取引の中心地でもあった神戸の金融ニーズに応えることは、日本銀行の業務遂行上必然の対応でありました。

当時から金融取引では、手形や小切手、現金（銀行券）が利用されてきました。最近ではデジタル化、ペーパーレス化が進んでいます。銀行券については発行残高が一貫して伸びており、根強いニーズがうかがわれます。日本銀行では、2024年度上期中をめぐりに銀行券を改刷します。今後とも皆さまに安心して現金を使っていただけのような工夫して参ります。

96年目を迎えて

さて、本店が現在の店舗に移転して61年目を迎えます。27年前の阪神・淡路大震災を耐え抜いた堅牢な建物です。もともと、震災当時は、事務室では書棚が倒壊し、書類は散乱、システムはダウン、金庫内も現金収容箱が崩れ落ちるといった惨状でした。そこから何とか立て直し、行政や金融機関の関係者にもご協力いただきながら、現金供給をはじめ被災後の資金決済ニーズに対応しました。

現在の日本銀行の業務継続体制は、こうした実践的な知見を踏まえて構築されています。地震、台風、集中豪雨、電力ダウンに感染症といった厳しい状況にあっても、現金の供給、金融機関の資金決済などの業務をしっかりと遂行し、金融システムの安定を維持することが肝心です。有事の際に底力を発揮できるように平時から意識を高め、訓練しています。引き続き神戸支店として業務継続力の維持・強化に努めて参ります。